



ベネディック (小出恵介)

パデュアの青年貴族。「寝とられ亭主になるのはごめん」という信念?から絶対結婚しないと宣言している。戦場では勇敢な武将だが、普段は機知に富んだ冗談や皮肉で人を煙に巻く天才。ビアトリスとは似たもの同士の口喧嘩仲間。しかし内心かなり気になっている様子で「あんなに凶暴でなければ美人」と評したり、悪口を言われて密かにへこむ可愛げもある。二人をくっつけようと計略したドン・ペドロは、それを見破っていたのかもしれない。



ビアトリス (高橋一生)

メッシーナ知事レオナートの娘。男に従属する生き方を当り前と思わない、強い意志と聡明さを持った女性。発する言葉はかなり痛烈だが、性格が明るいせいかわ嫌味にならず、ベネディックとの皮肉の応酬も周囲からは「陽気な戦争」など、ある意味ほほえましく思われている様子。ベネディックが自分を好きだと聞いたときの改心ぶりや、従姉妹のピアローが辱められたときの怒りようからは、芯は素直で優しい女性であることが伝わってくる。



クローディオ (長谷川博己)

フローレンスの伯爵。戦の出陣前にピアローを見初め、凱旋して恋を自覚する。その恋をまず友人や主君に相談するところは慎重派、しかし主君の「私が君の代わりに彼女を口説いて結婚させてやろう」という提案にのるところは少々おっとり過ぎ? いずれにしても素直で高潔な気性が周囲の人に愛されている。その素直さゆえに騙されやすく、高潔さゆえに裏切られたときの怒りは大きい。そして自分の間違いに気づけば潔い、正統派の好男子。



ピアロー (月川悠貴)

メッシーナ知事レオナートの娘。従姉妹のビアトリスと対照的に口数少なく、父親の言いつけに素直に従ってクローディオとの結婚を承諾する。ドン・ジョンの悪巧みによって無実の罪を着せられたときも、反論や言い訳の前にショックで気を失ってしまうお嬢様ぶり。しかし、その後で父親に責められたときの毅然とした言葉からは、芯の強い女性であることが伝わってくる。本当の女の強さを持っているのは、ビアトリスより彼女かもしれない。

オールメール・シリーズ第4弾『から騒ぎ』が描く、喜劇の真髓を見逃すな

今回のオールメール・シリーズ第4弾『から騒ぎ』は、まさに恋愛喜劇。それを演じる旬な俳優も見逃せない。舞台初出演の小出恵介をはじめ、若手俳優の実力派による「等身大の若者たち」が舞台上で繰り広げる恋の展開が待ち遠しい。

中期喜劇の傑作、恋を軸に展開する『から騒ぎ』

彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾として、人気のオールメール・シリーズの最新作が登場する。イタリアのシシー島メッシーナを舞台に、貴族の若者たちの恋が引き起こす騒動を描く『から騒ぎ』。数あるシェイクスピア喜劇の中でも、ウィットに富んだ言葉の豊穡さ、それを繰り出す登場人物たちの生き生きとした魅力は屈指といわれる傑作だ。

ストーリーの軸となるカップル二組の対照が、まず面白い。戦争で大きな武勳を立てたばかりのクローディオ伯爵は、メッシーナ知事レオナートの娘、ピアローのしとやかな美しさに一目惚れし、主君であるアラゴン領主ドン・ペドロの力を借りて求婚する。一方、クローディオの友人でやはり勇敢な武将のベネディックは、

ピアローの従姉妹ビアトリスと顔を合わせるたびに丁々発止の口喧嘩を繰り広げる仲。ところがその二人が、ドン・ペドロたちの計略で互いに相手が自分を好きだと思い込み、あっさり恋に落ちる。逆にクローディオは、ドン・ペドロの腹違いの弟ドン・ジョンにだまされ、結婚式の最中にピアローを浮気な女と罵倒。傷ついたピアローは気絶。怒ったビアトリスはベネディックに「クローディオを殺して」と迫り、事態は混乱を極めるが……。

魅力溢れる「等身大の主人公たち」

オールメール・シリーズではこれまで、『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』を上演してきた。この三作と今回の『から騒ぎ』の共通点は、いずれも若者たちの恋愛や冒険を軸にした賑やかな喜劇であること。そして、一見ただのドタバタとも思える展開の中に、若者たちの“自分探し”と、困難を乗り越えた後の成長が描かれている点も共通している。演出の蜷川幸雄がこのシリーズに毎回、旬の若手俳優を起用することで、作品のそういった魅力がさらに際立っているのではないだろうか。

『から騒ぎ』のメンバーも、まさに旬かつフレッシュな顔ぶれがそろった。主役のベネディックは、正統派から癖のある役、コミカル

な役柄まで幅広く演じられる若手実力派として、ドラマに映画にひっぱりだこの小出恵介。今回が満を持しての初舞台となるが、蜷川は「シャープでいい俳優だな、と思った」と大きな期待を寄せる。ビアトリス役の高橋一生も、舞台、映像、声優と幅広く活躍する若手実力派。中でも舞台は横内謙介、鴻上尚史、KERA など多彩な演劇人のもとで経験を重ね、蜷川作品も二作目となる。初めて挑む女役で、どんな演技を見せてくれるか楽しみだ。クローディオ役の長谷川博己は、数々の舞台で繊細でしなやかな演技を見せて、評価・人気ともに急上昇中。『KITCHEN』『カリギュラ』『わが魂

Profiles

小出恵介 こいで けいすけ

2005年、映画『バッチギ!』(井筒和幸監督)でデビュー。若手実力派として注目を集める。主な出演作に映画『きみにしか聞こえない』(萩島達也監督)『キサラギ』(佐藤祐市監督)『恋空』(今井夏木監督)『僕の彼女はサイボーグ』(クァン・ジュン監督)、ドラマ『おいしいプロポーズ』(TBS)『のだめカンタービレ』(CX)『佐々木夫妻の仁義なき戦い』(TBS)『ROOKIES』(TBS)等。今作で初舞台にて主演を務める。

高橋一生 たかはし いっせい

舞台・映画・ドラマで幅広く活躍。主な出演作に舞台『トランス』(鴻上尚史演出)『アイスクリムマン』(岩松了演出)『ファイナルファンタジクスーパーノーフラット』(本谷有希子演出)、『半落ち』(佐々部清監督)『スウィングガールズ』(矢口史靖監督)『ミートボールマシーン』(山口雄大監督)ドラマ『風林火山』(NHK)『医龍2』(CX)『1ポンドの福音』(NTV)『ゴンゾウ』(ANB)等。蜷川作品は『にこ江江』以来2作目。

長谷川博己 はせがわ ひろき

2001年文学座研究所に入所。TPT『BENT』(ロバート・A・アッカーマン演出)で初舞台を踏み、以降も『ゴロヴリョフ家の人々』(永井愛演出)『赤い月』(鶴山仁演出)『トーチングトリロジー』(鈴木勝秀演出)など多数の舞台で活躍。06年文学座退団後も、『シェイクスピア・ソナタ』(岩松了演出)など話題の舞台に出演している。蜷川演出作品には05年『KITCHEN』07年『カリギュラ』に続き本年5月『わが魂は輝く水なり』に出演。

月川悠貴 つきかわ ゆうき

1985年初舞台。数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショー等歌手としても活動。蜷川演出作品の娘役になくはならない存在で、オールメール・シリーズ全作品出演。『お気に召すまま』シリーズ、『間違いの喜劇』ルシアナ、『恋の骨折り損』マライアなど、その演技はどれも好評を博す。その他近作では『タンゴ・冬の終わりに』『カリギュラ』出演。『ハムレット』『タイタス・アンドロニカス』では劇中歌も担当。

は輝く水なり』と蜷川作品の常連になりつつあるが、このシリーズへは今回が初参加となる。そしてピアロー役は、オールメール・シリーズの女性役として欠かせない月川悠貴が演じる。

ドン・ペドロとレオナート役で若手を支える、シェイクスピア・シリーズの常連、吉田鋼太郎と瑤川哲朗の存在も頼もしい。シェイクスピアが生きた時代の演劇スタイルを踏襲しつつ、現代の観客も共感できる等身大の若者たちが登場するオールメール・シリーズ。その最新作『から騒ぎ』の開幕が待ち遠しい。

NEWS!!

2009年1月、蜷川幸雄×唐沢寿明による彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』上演決定!!

※メンバー優先予約は、9月初旬にお送りするプレオーダーシートにて

●●●●PLAY●●●● 彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾『から騒ぎ』

【日時】10月7日(火)～23日(木) 全18公演
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子
 【出演】小出恵介 高橋一生 長谷川博己 月川悠貴 吉田鋼太郎 瑤川哲朗 ほか
 【チケット(税込)】好評発売中
 一般:S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円
 メンバーズ:S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円
 【バックステージツアー】10月15日(木) 公演終了後(30分程度) 詳細は財団ホームページにて
 【アフタートーク】10月20日(月) 公演終了後出演者によるトークあり http://www.saf.or.jp/

10月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13:30																	
18:00																	
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●